Mass General Brigham
Mass General for Children

ダウン症のある子どもの行動

ダウン症のある子どもたちは、さまざまなユニークな行動をとることがあります。このような才能や能力を伸ばすには子どもたちを励まし、根気よく見守ることが大切です。

ユニークな才能

ダウン症のあるすべての子どもたちは、皆、才能に恵まれています。たとえば、詩をつくったり、創造的なアートであったり、他の人の感情を読みとるなどです。ダウン症のある人たちは、集団の一員であると同時に、独自の才能があるユニークな存在として見られたいのです。子どもたちにはプレッシャーを与えず、励ますことが大切です。

子どもたちが自分の才能を伸ばせるように手助けができます。例えば、音楽に興味があるのなら適切な音楽の先生の指導を受けさせるなどです。

独り言

独り言は、ダウン症のある子どもや大人にはよくあることです。心配する家族がいますが、心配は無用です。独り言は普通のことであり、非常に役立つ理由があります。

- 独り言は、認知の発達に重要な役割を担っています。行動と思考を一致させるために役立ちます。
- また、子どもたちは声に出して考えたり、感情を処理するために独り言を使うことができます。日々の出来事をこなしていく中で、自分自身に話しかけることがよくあります。
- 子どもは、独り言を娯楽に使うこともあります。自分の自由な時間に好きな物語や映画を繰り返して話すことを楽しむようです。
- ほとんどの場合、独り言（内容）は社会的に適切なものです。そうでない場合は、家族や医師と相談する必要があります。子どもの独り言をプライベートなものと理解することが重要です。

コミュニケーション

コミュニケーション能力は、他の人とうまくやっていくために重要です。他の人に理解してもらいやすい人もいる一方で、コミュニケーションが苦手な人もいます。ほとんどのダウン症のある人は、この中間です。 言葉を話すのが苦手でも非言語でコミュニケーションをとる方法がたくさんあります。

- 顔の表情
- ジェスチャー
- サイン

社会的な場では、子どもたちが落ち着いて考え、話すことができるようにするため、忍耐強く接することが大切です。そのために、オープンクエッション（答えの範囲を制限しない質問）よりも､「はい」もしくは「いいえ」で答えられるクローズドクエッションをするようにします。

視覚的記憶

ダウン症のある人の多くは 人、場所、過去の出来事について､驚くほどの記憶力をもっています｡これは､しばしば「映像記憶」と表現されることがあります。

- 子どもたちは、好きな映画俳優や歌など、興味のあることをリストアップします。
- また、物がどこにあるか、行ったことのある場所をよく覚えていることもあります。この能力は自分が迷子になったときや、他の人の道案内をするときに役に立ちます。
- また、この能力は、CD や DVD のライブラリーを作るなど自分の持ち物を整理する際にも役に立ちます。また移動した物があれば、すぐにわかります。

“Mental Wellness in Adults with Down Syndrome” Dennis McGuire, Ph.D, Brian Chicoine, M.D からの引用

佑 -you-
マサチューセッツ総合小児病院の許可のもと、「佑」（代表：植田紀美子 関西大学 / はしもとクリニック）が翻訳し
和泉出版印刷株式会社が作成しました。日本語訳についてのお問合先　info@you-3c.com